



持てるすべてを「いのち」に向けて。

Dedicated to sustaining all life.

私たち農林中央金庫の仕事は、
ある日突然、世界を大きく変えるようなものではない。

なぜなら私たちが向き合う農林水産業とは、
自然を相手にし、一朝一夕に変化や成果を生み出すものではないから。
モノをつくるのではなく、「いのち」を生み、育て、繋いでいくものだから。

だからこそ私たちは、世界の金融市場で安定した利益をあげるという挑戦を続け、
規模の大小を問わず、地域と農林水産業を守る人々に尽くす金融機関として生きてきた。
そうして、100年の歴史を重ねてきた。

しかしこれからは、それだけでは十分とはいえない。
農林水産業が、時代の変化をとらえ発展し続ける産業になるためには、
私たちは、これまで以上の役割を果たさなければならない。

金融の知見を活かしながら、いままでの機能や範囲を超えた新たな貢献へ。
現場の課題の解決に、身をもって真摯に挑んでいく。
生産者はもちろん加工や流通、そして消費者と向き合い、その声に応えていく。

農林水産業から生まれる「いのち」は、
その先に連なるたくさんの「いのち」の営みに繋がっている。

いまこそ、私たち一人ひとりが、持てるすべてを発揮する時。
未来へと受け継がれるこの「いのち」の連鎖を、
より豊かで確かなものにするために。

パーパス(私たちの存在意義)

持てるすべてを「いのち」に向けて。

Dedicated to sustaining all life.

ステークホルダーのみなさまとともに、
農林水産業をはぐくみ、豊かな食とくらしの未来をつくり、
持続可能な地球環境に貢献していきます



農林中央金庫

NORINCHUKIN

パーパスに込めた想い

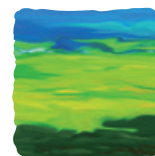
「人のいのち」と「食べ物(生物)のいのち」と「地球(星)のいのち」は
繋がっています。

私たちが生きるためには食べ物が必要、食べ物を届けてくれるのが
農林水産業、農林水産業が作り出す食べ物すなわち動物や植物は、
水や空気といった自然の恵みの授かりもの。

自然の恵みは、持続的な地球環境があってこそもたらされるものです。

こうした“いのちの連鎖”を踏まえ、私たちが掲げる「持てるすべてを
「いのち」に向けて。」というコーポレートブランドのタグラインを
もう一段具体化して、「パーパス(私たちの存在意義)」を定めました。

コーポレートロゴ



NORINCHUKIN

農林中央金庫

農林中央金庫のロゴマークに描かれているのは、

農林水産業が営まれ、数多の「いのち」がつながってきた、
日本の景色そのものです。

海・大地・森の各色がひとつに混じり合うその様は、

そこにある「いのち」の息吹と、

ともに歩み続ける私たち一人ひとりの、

意思を表しています。